

校長室から ひがしなら通心

(H29年度)

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 3

平成29年4月18日(火)発行

ある新聞

記事より

読売新聞4/17朝刊より

スマホ親が管理して

新年度が始まりました。中学校や高校に進学した子どもに、スマートフォンを持たせたり、持たせるべきかどうか悩んだりしている人も多いのではないのでしょうか。いつ頃から持たせればいいのか、使用のルールはどうすればいいのか。スマホと社会の関係について研究する関西大教授の岡田朋之さんに聞きました。

持たせるかどうかの判断には、子どもの年齢よりも、親が管理できるかが重要です。

スマホはネットやゲーム、通話など多種多様な機能があり、小中学生の段階で自己管理を求めるのは無理です。アプリのダウンロードや年齢制限などの設定は親が行い、設定変更のパスワードは子どもに教えないことが大切です。また、利用履歴をチェックし、むちゃな使い方をしていないかを確認してください。

関西大教授(メディア論)

岡田朋之さん



使う際のルールも話し合
って決めましょう。食事中
や入浴中に使わない、寝床
に持ち込まない、SNS(ソ
ーシャル・ネットワーキン
グ・サービス)で不用意に
個人情報を書き込まないな
ど。約束を守れないことが
度重なる時や、生活リズム

が著しく乱れている場合、
取り上げることも視野に入
れましょう。
子どもを守るため、親が
仕組みやリスクを理解し、
適切な使い方を伝えてほし
い。携帯電話会社などが開
く保護者向けの講座もある
ので、積極的に利用してく
ださい。理解できていれば、
子どもと話し合いながら、
年齢に応じて使える機能を
段階的に広げていくことも
抵抗がなくなります。
現代において、スマホな
どに触れずに成長すること
は、世界とつながる可能性
を閉ざし、リスク管理につ
いて学ぶ機会も失う。幼い
子どもはひとりりで外出させ
ず、手をつないで一緒に出
かけますね。デジタルの世
界も、子どもに寄り添いな
がら踏み出してください。

子育てQ&Aでは、子育ての悩みや疑問を募集しています。郵便は、〒530-8551大阪市北区野崎町5の9、読売新聞大阪本社生活教育部「子育てQ&A」係へ。メール(seikatsu@yomiuri.com)でも受け付けます。



おかだ・ともゆき 2007年から現職。15～16年にはフィンランド・アールト大客員教授も務めた。著書に「ケータイ社会論」(共著)など。

こどもの詩

春へのカウントダウン
朝起きると
窓にはビタビタの結ろ
雑巾を1枚、2枚、3枚と使って
冷たい水を取りのぞく、それが
3、2、1...0枚になったら
春がやってくる
ちなみに今日は0.8枚分...かな
(兵庫県姫路市・妻鹿小5年)

藤尾 和輝

結露が減ることで春を感じるところが素晴らしいと思いました。(平田俊子)

携帯電話やスマートフォン、インターネットのより良い使い方についての取り組みが全国で広がっています。「携帯電話やスマートフォンを一日中はなさない子どもたちが増えている」「薄い人間関係にすぎている」「メールや掲示板等に人の気持ちを考えない書き込みをされて事件になる」など、新聞やテレビで多く見られる現状があります。

かつて、主なコミュニケーションの方法は、「会うことにより話す」「電話で話す」「手紙を書く」という、人と会ったり、文章に書いたりという方法でした。そこでは上手な話し方、書き方という言語活動を高めることに力を入れてきました。

しかし、急速なネットやSNSの普及により、相手の顔が見えないままのコミュニケーションが一般的になってきているのが現状です。ネットやSNSでは、送り手の心が伝わりにくい問題があります。顔が見えていないと、その人と心を通わせることができます。相手が見えないため、悪口も書きほうだいで。相手と自分の心につながりがない場合、いじめの方法にもなります。ふざけ半分で送った写真は一瞬にして世界中に広がります。送ってしまった後のことをしっかり考えずに行ってしまう。個人情報保護ができにくくなっているのです。

さらに、相手の都合を考えずに、メールを送ってしまい、返信されなければ自分と相手とのつながりをなくしてしまうような行動をとってしまうのです。そこでは、携帯やスマートフォンを片時も手放せなくなってしまう子どもの姿が見られます。徹夜でメールをしなければならないという精神状態になってしまっているのです。

なんとか、子どもを救うことを考えなければならないと、立ち上がっている市町村が全国的に見られます。

- 1) 夜の8時には居間の充電器に携帯電話やスマートフォンを置く。
- 2) パソコンにフィルターをかけたり、居間に置くようにする。
- 3) 相手の顔が見えるコミュニケーションで絆を深めていく。
- 4) 自己肯定感を高めて、自分が好き、友だちも好きという心を培っていく。

このようなルールを各ご家庭でもお子様とお考えください。親がスマホを与えるだけで、そのままという状況になりやすいことがあります。子どもを守るためにも、そのような状況だけは絶対避けてください。